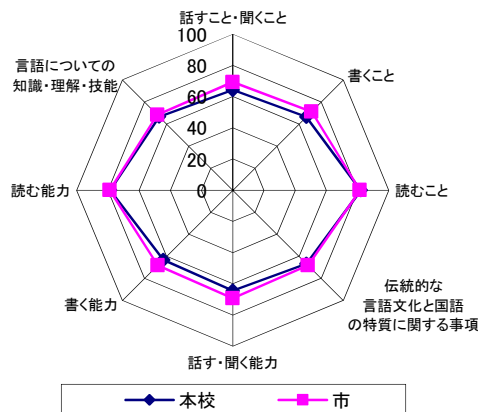


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	64.3	69.3	73.4
	書くこと	66.5	71.3	74.6
	読むこと	82.0	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.7	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	64.3	69.3	73.4
	書く能力	63.0	68.1	71.7
	読む能力	78.6	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	66.7	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

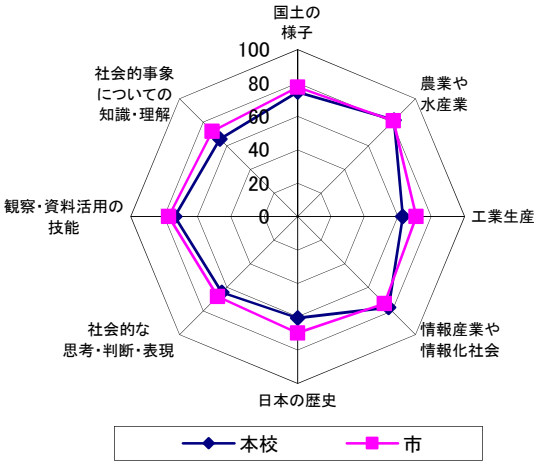
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・校内正答率は、市の平均より5ポイント低い。 ○「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすることができる」の校内正答率94.0%で、市の平均と比較して1.7ポイント高い。 ●「話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめることができる」の校内正答率21.0%で、市の平均と比較して8.9ポイント低い。	・今後も継続して、児童の実態から必要性のある課題を取り上げ、話し合いに必然性をもたせるなど「問い」を工夫するとともに、司会者や発表者などの立場や意図を明確にして、話し合いができるように指導する。 ・グループ学習などを活用して、自分の思い・考えなどを発表させることで、話し手が伝えたい内容をまとめるよう指導する。
書くこと	・校内正答率は、市の平均よりも4.8ポイント低い。 ●「国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を理解することができる」の校内正答率は、56.0%で市の平均と比較して10.3ポイント低い。 ●「2段落構成で文章を書くことができる」の校内正答率は、68.0%で市の平均と比較して7.3ポイント低い。	・国語辞典を日頃から活用し、国語以外の教科でも自分の考えを文章で表現できるよう、意図的に機会を作っていく。また、長さや複数の段落構成の与えられた条件の中で文章を書く活動を繰り返し、書く力の向上を図っていく。 ・読み手に自分の意見を明らかにして文章を書いたり、理由や事例を挙げて文章を書いたりできるようにするために、説明的な文章における表現を振り返らせる。
読むこと	・校内正答率は、市の平均よりも0.5ポイント高い。 ○「物語の内容を読み取る」の校内平均正答率は、88.5%で、市の平均と比較して2ポイント高く、登場人物の心情、場面の描写を読み取ることができた。 ●「説明文の内容を読み取る」の校内平均正答率は、73.3%で、市の平均と比較して1.4ポイント低く、文章の内容を的確に読み取ることができなかった。	・教科書の物語文や説明文を活用して、読み取りの力を付けていく。 ・説明文については、語句や説明的な文章の表現を取り上げたり、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落構成を学ばせたりすることで、内容を的確に読み取る力や構成を押さえる力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・校内正答率は、市の平均よりも1.4ポイント低い。 ○「敬語（謙譲語）の使い方を理解している」の校内正答率は48.0%で市の平均より7.2ポイント上回るなど、言葉の学習の校内正答率は、市の平均より高い。 ○漢字の「穴」の読み方の校内正答率は100%で市の正答率よりも5ポイント高く、「幹」の書き方校内正答率は42.0%で市の正答率よりも2.3ポイント高い。 ●漢字の上記以外の「読む」「書く」については、校内正答率が市の正答率よりも低い。	・今後も日頃から、熟語を意味や構成を意識させながら活用する学習を取り入れ、定着を図る。 ・漢字については、6年漢字の「読み・書き」、5年漢字の「書き」を繰り返し漢字ドリル等で継続指導し、小テストを定期的実施することで定着を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	74.6	77.5	74.0
	農業や水産業	81.8	81.1	73.7
	工業生産	63.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	77.0	73.7	63.2
	日本の歴史	60.8	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.1	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	73.5	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	65.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

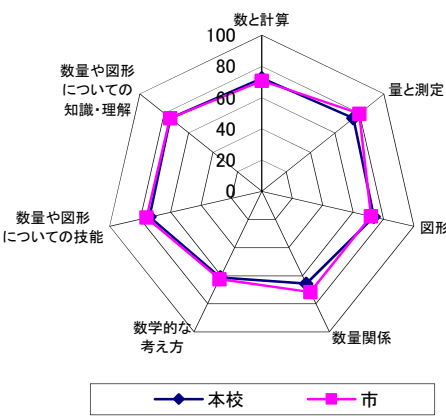
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	・校内正答率は、市の平均より2. 9ポイント低い。 ○森林を守るための間伐について答える問題の正答率は、市の平均より3. 1ポイント高い。 ●日本の気候の様子について、説明にあてはまる雨温図と都市の位置を判断する問題の正答率は、市の平均より14. 5ポイント低い。	・地図帳や地球儀を活用し日本の周囲の国や海洋名について理解させたり、ワークシートを活用して国旗を覚えさせるなどして知識の定着を図る。 ・日本の各地域の気候の特徴を資料から読み取る活動を取り入れ、資料から情報を読み取る力を育てていきたい。
農業や水産業	・校内正答率は、市の平均より0. 7ポイント高い。 ○農業で働く人々がかかえる問題について複数の資料から読み取り、考えて表現する問題の正答率は、市の平均より3. 9ポイント高い。 ●日本の食糧自給率について、資料から読み取る問題の正答率は、市の平均より2. 9ポイント低い。	・資料を読み取ったり資料を基に考察したりする力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料を基に自分の考えを説明したりまとめたりする活動を積極的に取り入れる。
工業生産	・校内正答率は、市の平均より8. 1ポイント低い。 ●工業地帯・工業地域の立地について、資料を読み取り考える問題の正答率は、市の平均より12. 2ポイント低い。	・資料から情報を読み取り、整理し、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明し合ったりする活動を取り入れる。
情報産業や情報化社会	・校内正答率は、市の平均より3. 3ポイント高い。 ○医療における情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考える問題の正答率は、市の平均より7. 9ポイント高い。	・身近なマスメディアの特徴や情報ネットワークの利便性について、日常的に機会を捉えて具体的な場面で説明するとともに、情報化社会における正しい情報利用の方法について今後も指導していく。
日本の歴史	・校内正答率は、市の平均より8. 9ポイント低い。 ●縄文時代～平安時代についての問題の平均正答率は約12ポイント、鎌倉時代～室町時代についての問題の平均正答率は約15ポイント、安土桃山時代～大正時代についての問題の平均正答率は約10ポイント、それぞれ市の平均より低い。	・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表、新聞などにまとめる活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.4	70.8	65.9
	量と測定	75.0	79.9	77.0
	図形	73.7	71.8	74.6
	数量関係	65.7	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	61.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	73.8	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	75.1	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

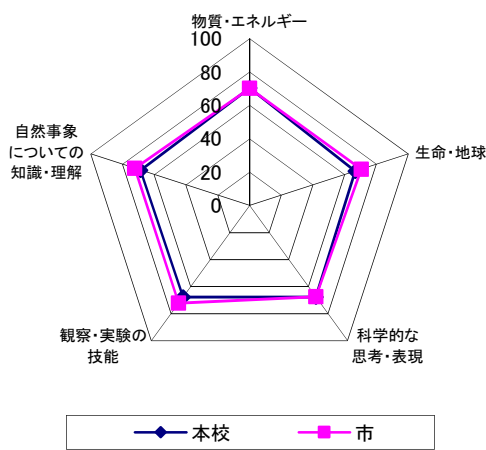
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・校内正答率は市の平均より1.6ポイント高い。 ○数と計算の領域全体では、市・全国の平均を上回っている。特に、小数第二位÷小数第一位＝小数第一位の計算では、市より10ポイント高い。 ○分数の計算でも市の平均より高く、基礎的な計算の力が身に付いている。 ●小数の計算・整数の仲間分けの問題で、問題の場面を理解し、式の表しているものを選ぶ問題は、市の平均より7.7ポイント低い。	・基礎的な計算の力は定着しつつある。今後も宿題や朝の学習を活用し継続的に指導していく。また、小数や分数を含むかけ算やわり算の計算など、発展的な問題を解く力も身に付けていけるよう指導の充実を図る。 ・言葉や数、式、図などの相互の関連を理解し、それらを用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明することができる力を養うために、普段から探究的に説明し合う学習環境作りを意識的に設ける。
量と測定	・校内正答率は市の平均より4.9ポイント低い。 ○面積と体積の領域は、面積・体積の求め方が市よりも高く、特に直方体を組み合わせた形の体積を求める問題はよく理解できている。面積を求める式から求め方を示した図を選ぶ問題も市の平均より3.3ポイント高い。 ●単位量あたりの大きさ・速さを求める内容が全体的に市の平均より低い。図から面積と人数の割合を求め、最も混んでいるシートを選ぶ問題は、市より8.6ポイント低く、道のりとかかった時間から時速を求める式を選ぶ問題では、11.8ポイント低い。 ●ひし形の面積の求め方が市の平均より10ポイント低い。	・単位量あたりの大きさにおける込み具合を求める問題では、「面積あたりの人数」と「1人あたりの面積」をしっかりと区別させて立式できるようにするとともに、短絡的に数が多い方が混んでいると答えることのないように、立式から導き出される数の意味まで押さえて指導する。 ・ひし形の面積の公式「一方の対角線×もう一方の対角線÷2」について、異なる対角線の長さをかけ合わせるという意味をしっかりと捉えさせる。
図形	・校内正答率は市の平均より1.9ポイント高い。 ○図形の領域のほとんどの問題で市を上回っており、良く理解されている。特に、図形の作図の問題で、市より8.2ポイント、全国より9.7ポイント高い。 ●線対称な図形の対称の軸についての理解は高いが、点対称な図形の対応する点については、市の平均より10.5ポイント低い。対象の軸が斜めになった際の対応する点を選ぶことに課題がみられる。	・線対称や点対称を関連づけながら、それぞれの特徴をより深く理解できるよう指導の充実を図る。さらに、対称性という観点から基本的な図形を見直す活動も取り入れ、知識の定着を図る。 ・対応する点や辺を見つけるために、対象の中心や対象の軸を基準に考えることの定着を図るために、習熟度学習や少人数指導を有効に活用し、つまづきの原因を見極め、個別指導の充実を図る。
数量関係	・校内正答率は市の平均より6ポイント低い。 ○比例と反比例は、比例の関係をxとyを使って式に表す問題は市の平均とほぼ同じである。 ●反比例の表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題は市の平均より8.2ポイント低い。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題は、市の平均より2ポイント低く、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では市の平均より17ポイント低い。	・比例・反比例では必ず定数があることを押さえ、表から定数を見つけ、立式できるようになるため繰り返し指導する。 ・表や式、グラフなどを用いて、伴って変わる2つの数量の変化や対応の規則性を読み取ったり表したりすることで、関数的な見方、考え方を深めるよう指導する。また、関数の考えのよさに気づかせ、学習や日常生活に生かしていこうとする態度を育てる。 ・なぜそのような関係式になるのか根拠を明らかにして説明する場面を意識的に設ける。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.4	70.3	69.0
	生命・地球	66.5	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	67.6	67.5	66.4
	観察・実験の技能	67.8	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	68.7	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○校内正答率は、70.4%で市の平均より0.1ポイント高い。 ○「物の燃え方」については、すべての設問で市の平均正答率よりも0.1ポイント～4.9ポイント高い。 ●「電流のはたらき」については市の平均正答率よりも5～10ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察など、体験を通した学習を今後も取り入れていきたい。また、実験の結果から、予想を検証して説明する活動も今後より一層取り入れていく。 ・「電気のはたらき」については、電磁石のはたらきが大きくなる条件や、電磁石の極が逆になる条件などを復習し、理解の定着を図る。
生命・地球	○校内正答率は、66.5%で市の平均より3.9ポイント低い。 ○植物の水が通る部分について答える問題では、市の平均より19.7ポイント高い。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」については、すべての設問で市の平均正答率より約10ポイント低く、課題が見られる。 ●「植物の発芽と成長」については、すべての設問で市の平均正答率より1～10ポイント低い。	・「動物のからだのつくりとはたらき」や「植物の発芽と成長」において、名称に関する知識・理解を高めるためワークシートなどを活用する。また、映像や図などを用いて事柄の説明をするなどして学習の定着を図る。 ・科学的な思考・表現の観点に課題がある。実験から分かったことを自分の言葉でまとめる場面やグループやペアになって意見を交換する時間を取り入れ表現する場を増やす。

宇都宮市立上河内中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成」の研究の充実	話し合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるような指導の工夫を図る。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード」や「学習のきまり」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図る。 特に、板書計画をしっかり立て、授業のねらい、まとめを明確にするとともに、振り返りの時間を確保し、学習展開の充実を図る。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の3～6年生の平均の肯定割合は、89.9%と良好であった。また、「グループなどでの話し合いに進んで参加している」では、1～6年生の平均の肯定割合が約85.9%で、話し合いを通して学びを深めるスキルが身に付きつつあることがうかがえる。 「授業で習ったことをノートにまとめている」の1～6年生の平均の肯定割合は約84%であった。春に比べて、向上している。 「不思議だ、なぜだろう」と感じることもある」の1～6年生の平均の肯定割合は約68.4%で、学年間の差が大きかった。
基礎・基本の確実な習得	基礎・基本的な内容を意図的に繰り返して学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。	「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習している。」は77.4%であった。 「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」は、肯定割合が平均が97.5%でどの学年も高く、学ぶ意欲へつながっていることがうかがえる。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施により、家庭学習への意欲向上や生活リズムの見直しを行うとともに、学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題に前向きに取り組めるよう図る。	「宿題はきちんとやっている」の1～6年生の平均の肯定割合は91.8%と高く、定着が感じられるが、「自分で計画を立てて学習している」は、76.6%であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎・基本の確実は習得に向けた取り組みにより、4～6年の国語「読む」算数の「数と計算」は平均を上回り力をつけてきていることがうかがえる。しかし、国語の「話す・聞く」「書く」、算数の「量と測定」「数量関係」には課題が見られ、全ての学年で意識して指導に取り組む必要がある。

家庭学習の定着が見られ、7～8割の児童が学年の目標学習時間学習することができており、宿題については9割以上の児童が進んで取り組むことができるようになっている。自ら計画を立てて学習することも少しずつできる児童が増えているので、今後も指導を継続していきたい。